

田原坂

年刊
Tabaruzaka
Vol.10

弾痕から見えた戦況

樹木・建物・石積・墓石 etc
木と石に刻まれた戦い

小銃弾・砲弾…弾痕の認定

特集 今に残る激戦の語り部
「西南戦争の弾痕」調査報告

新しく生きよう。

NEO ONE
KUMAMOTO

特集 今に残る激戦の語り部

「西南戦争の弾痕」調査報告

明治十年（一八七七）の西南戦争の戦場。

文献記録や伝承、または後世に建てられた碑の類ではなく、確かにこの場所で戦いがあったということを明確に示す物証が、小銃弾・砲弾などの散布と弾痕である。

小銃弾・砲弾などは「昔はこの辺りにたくさん落ちていたけれど…」という話を聞くように、近年の都市化や圃場整備などによって、散布する場所は少なくなってきた。

そこで改めて注目されるのが弾痕である。当時からその場、あるいは近くにあった樹木・建物・石積・墓石などにそれは認められる。場合によっては、どの方向から発射されたものが判り、戦況の復元が可能なものもある。

今回の特集に合わせ、熊本県内ほか各地の弾痕を改めて調査した。これまであまり注目されていなかったこともあり、新たな発見も多かった。本号は、熊本市が行なった「西南戦争の弾痕」調査の報告書である。



「弾痕の向こうに見える戦場」をご覧ください

石（石積・墓石など）

非弾痕（発泡等）



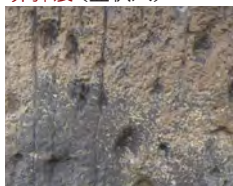
ガスや石の中の粒が抜けた跡、爆ぜは無い

弾痕（小銃弾）



衝撃で穴の周りが爆ぜている

非弾痕（盃状穴）



信仰で彫られた、穴の縁はなだらか

弾痕（小銃弾）



縁に当たった跡、片面は爆ぜが広がる

弾痕（砲弾）



周辺地に小銃弾痕が認められ割れが大きい

弾痕が認められる石材
小銃弾（鉛）の弾痕は阿蘇熔結凝灰岩などの軟質石材に認められる。本書において、特に表記の無い石材は全て凝灰岩である。

木（柱など）

弾痕（小銃弾）



穴の周りの木目が乱れている

弾痕（小銃弾）



刺さった銃弾そのものが残っている

非弾痕（節穴）



穴の中がボソボソしている（枝が腐植）

弾痕（小銃弾）



かすった跡（傷状）、木目が凸凹する

木（板など）

非弾痕（節穴）



木目が穴の形に沿って曲がっている

弾痕（小銃弾）



弾が抜けた側は穴の周りがささくれている

調査の方法

激戦地にあつて…

- ① 既に弾痕と報告されている
- ② 地元で弾痕と伝わる（聞き取り）
- ③ 新たに西南戦争時からあつたとみられる建物・樹木・石造物などを探す

弾痕の認定

【表紙】新キャラクター登場！
— 洲本珉平・豊島玄之助 —
大阪鎮台歩兵第八連隊第二大隊二等兵卒 洲本珉平。貧家の三男坊だった彼は、身を起こさんと陸軍に入隊するも直後に西南戦争が勃発。激戦地田原坂に派遣される。
不安のなか、珉平が出会ったのは同郷の先輩兵、豊島玄之助であった。（画 樫木成香）

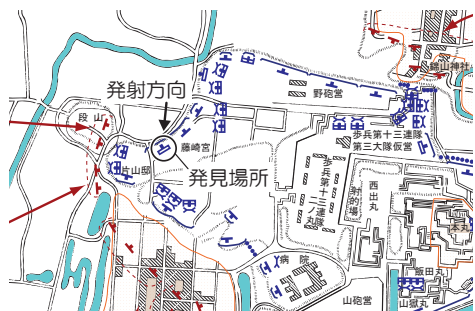
西南戦争の弾痕リスト（調査・実見したもの）		※下線は小銃弾等の実物が残るものあり	
藤崎台のクスノキ群	熊本県熊本市宮内	樹木	熊本城総攻撃 2月22・23日
正念寺	熊本県玉東町木葉	山門・石階段・石積・樹木（金属反応）	木葉の戦い 2月23日・3月3日
正野神社	熊本県玉名市立願寺	社殿・棟札	高瀬の戦い 2月25～27日
読坂阿弥陀堂跡	熊本県玉名市繁根木	鋳造阿弥陀如来像・石造仁王像	
寺田菅原神社	熊本県玉名市寺田	社殿	
八重垣神社	熊本県玉名市永徳寺	庚申碑・石祠「櫻井又吉翁頌徳碑」	
玉名大神宮	熊本県玉名市玉名	石積	
繁根木稲荷神社	熊本県玉名市繁根木	石灯籠	
墓地	熊本県玉名市繁根木	墓石	
高瀬裏川水際緑地公園	熊本県玉名市高瀬	水路石積	
岩崎の民家跡	熊本県玉名市高瀬	板戸（玉名市歴史博物館蔵）	
願行寺	熊本県玉名市高瀬	石積	
墓地	熊本県玉名市高瀬	墓石	
梅林天満宮	熊本県玉名市津留	石灯籠	
河崎天満宮	熊本県玉名市河崎	石灯籠	
官軍本営出張所跡	熊本県玉東町二俣	石積	田原坂の戦い 3月4～20日
田原坂公園北側	熊本県熊本市植木町豊岡	<u>土にめり込んだ砲弾片</u> ・大楠（金属反応）	
田原熊野座神社	熊本県熊本市植木町豊岡	社殿・樹木・石鳥居・石灯籠・石祠	
田原の五輪塔	熊本県熊本市植木町豊岡	石製五輪塔（建治3年-1277年銘）	
墓地	熊本県熊本市植木町豊岡	墓石	
平原の民家跡	熊本県熊本市植木町平原	縁側の柱	
上白木の民家跡	熊本県玉東町上白木	座敷の柱	
白山宮	熊本県玉東町西安寺	石灯籠	
仁連塔神社	熊本県熊本市植木町広住	社殿	木留・植木方面の戦い 3月20日～4月15日
薩軍本営跡付近	熊本県熊本市植木町木留	石祠	
辺田野熊野座神社	熊本県熊本市植木町辺田野	社殿	
荻迫神社	熊本県熊本市植木町荻迫	社殿	
そめや旅館跡	熊本県熊本市植木町植木	天井板	
荻迫観音	熊本県熊本市植木町荻迫	石祠「相撲の神さん」	
墓地	熊本県熊本市植木町滴水	墓石	
田原坂西南戦争資料館	熊本県熊本市植木町豊岡	銃弾箱・樹木片・板材（詳細地不明）	植木町周辺 2月下旬～4月中旬
オブサン古墳	熊本県山鹿市城	閉塞石・石室の羨門袖石	山鹿口の戦い 2月26日～3月21日
墓地	熊本県山鹿市鍋田	墓石・中世板碑	
石藤崎八幡宮	熊本県山鹿市石	石橋・楼門	
正泉寺	熊本県山鹿市椿井	石積・本堂の柱	
鍋田村江戸時代民家	熊本県山鹿市鍋田	縁側の柱（山鹿市立博物館近くに移築）	
正円寺	熊本県山鹿市津留	本堂垂木（修理、現存せず）	
野々島矢具神社	熊本県合志市野々島	社殿・石灯籠	野々島・南田島方面の戦い 3月21日～4月15日
光徳寺	熊本県菊池市泗水町南田島	本堂天井（修理、現存せず）	八代方面の戦い 4月6～17日
春光寺	熊本県八代市古麓町	板戸・位牌・顕彰碑（明治8年-1871年銘）	
妙見宮のクスノキ	熊本県八代市妙見町	伝承、金属探査はしていない	突圄隊の戦い 4月8日
新屋敷の民家跡	熊本県熊本市新屋敷	床間框材	
健軍神社杉馬場	熊本県熊本市健軍	樹木	城東会戦 4月17～21日
大願寺	熊本県大津町室	山門	
人吉城跡	熊本県人吉市麓町	長堀跡沿い樹木（金属反応あり）	人吉の戦い 5月7日～6月1日
青井阿蘇神社	熊本県人吉市上青井町	石灯籠・拝殿礎石	
老神社	熊本県人吉市老神町	境内天満宮社殿	
観音禅寺	熊本県人吉市願成寺町	石灯籠（同市内から移設）	
茶屋ノ辻一帯	大分県竹田市竹田	切通し露頭・墓石・樹木（金属反応あり）	竹田の戦い 5月20～29日
大楠台場近く	宮崎県日之影町岩井川	自然礫	大楠方面の戦い 6月25日～7月2日
坊主岩	宮崎県西米良村竹原	天包山中の自然礫	天包山の戦い 7月22・23日
鹿児島城跡	鹿児島県鹿児島市城山町	大手虎口石垣（太平洋戦争の弾痕混在）	城山の戦い 9月1～24日
私学校跡	鹿児島県鹿児島市城山町	石堀	

天然記念物から小銃弾 ― 熊本市藤崎台のクスノキ群

天然記念物「藤崎台のクスノキ群」。北側の木の太い枝が折れ、これについて金属反応があった箇所を彫りくぼめてみると・・・突き刺さったエンフィールド銃弾が見つかった。

銃弾は、北側に伸びる枝のやや下向きの面に刺さっていた。薩摩軍が、城外の北側から撃ち上げるように発射したものと思われる。

総攻撃初日の二月二十二日は、藤崎台で特に激しい戦闘があり、銃弾はこの日のものの可能性がある。戦いの幕開けを告げる銃弾といえる。



藤崎台には砲台が置かれ、薩摩軍の攻撃目標となった



折れた枝に金属探知機を当て・・・



反応箇所を彫りくぼめると・・・

小銃弾発見！



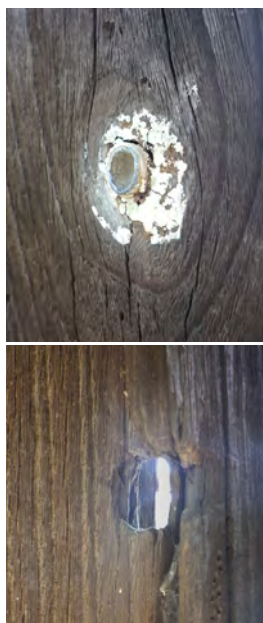
藤崎台の古写真(西から)、クスノキ群も見える

往還沿いの弾痕 ― 玉東町正念寺

西南戦争の緒戦、木葉の戦いは三池往還周辺で展開された。弾痕が残る正念寺はこの往還沿いにあり、三月三日以降には政府軍の繃帯所(仮設病院)が置かれた。



山門脇の樫の木、金属反応がみられる



山門の弾痕、小銃弾が残るものもある

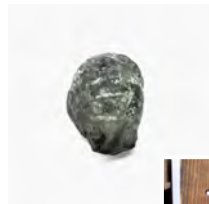
高瀬の戦い 二月二十五・二十七日

棟札に弾痕 ― 玉名市足野神社

「西南戦争の関が原」といわれる高瀬の戦い。これに敗れた薩摩軍は、以降、撤退戦をくり返すことになる。

戦場は菊池川沿いの広い範囲で、このことから玉名市内各所で弾痕が認められる。

まずは、社殿の棟札という稀な所に弾痕がある足野神社を紹介する。特に二十七日、その北方で激戦があった。弾痕も北側から撃ち込まれたものである。



社殿に刺さっていた小銃弾



棟札の弾痕



山門前の階段の弾痕



石積(西向き)の弾痕、方向からみて政府軍のものであろう

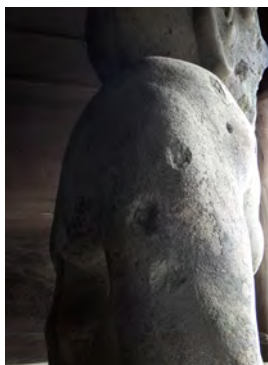
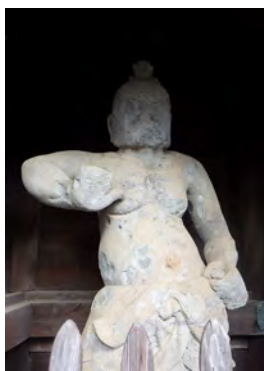
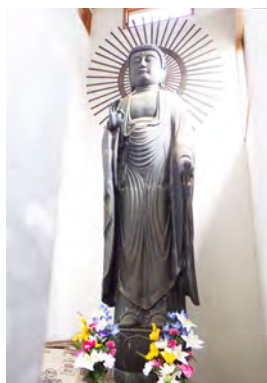
高瀬の戦い(つぎ)

罰当たりな弾痕―玉名市読坂阿弥陀堂跡

現在、繁根木神社楼門におわす石造仁王像。軟質安山岩(塩田石)製、高さは約二メートルで、阿吽形とも正面側に多数の弾痕が見られ、逆に背面には殆んど見られない。

一方、同神社の北側におわす鑄造阿弥陀如来像は、裾に弾痕が見られる。

これらは、当時、近くの繁根木川沿いにあった読坂阿弥陀堂に、南側を向いて立っていた。この場所では、二月二十五・二十七日、南から侵攻する薩摩軍と北側の政府軍との間で戦闘があり、仁王像の弾痕は薩摩軍のものである可能性が高い。また、多数の弾痕があることから、あるいは政府軍は仁王像を楯にし、これを薩摩軍が集中的に狙ったとも考えられる。



阿形の弾痕

吽形の弾痕、下は腹部のアップ



弾痕

阿弥陀如来像の弾痕

2月27日の高瀬の戦闘
※陸上自衛隊北熊本修観会
『新編西南戦史付図集』
1979に加筆



●は阿弥陀堂の位置

西郷小兵衛戦死の地に近く
―玉名市八重垣神社―
西郷隆盛の末弟、小兵衛は高瀬の戦いで繁根木河畔にて戦死。彼の供養碑近くにある八重垣神社には、その激戦を示すように弾痕が残っている。



石祠笠の弾痕



庚申碑の弾痕



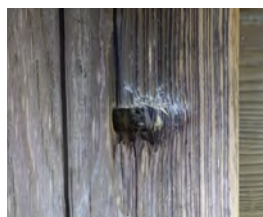
境内前面の石積の弾痕

桐野が立てこもった神社 ―玉名市玉名大神宮―

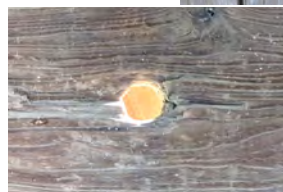
二月二十七日、薩摩軍四番大隊長桐野利秋は玉名大神宮に立てこもるが、その後、未明に山鹿に敗走する。石積には、政府軍のものと思われる弾痕が見られる。



社殿背面の弾痕(○印)



社殿柱の弾痕



社殿背面の弾痕(内側から)

奸計にはまった熊本隊の苦戦―玉名市寺田菅原神社

二月二十六日、党薩諸隊の一つである熊本隊は、政府軍間者の奸計に陥り寺田で政府軍に挟撃され、隊長池辺吉十郎も負傷する。その後方に熊本隊が布陣したという菅原神社の社殿に弾痕が残る。

田原坂の戦い 三月四〜二十日

政府軍陣営に迫った薩摩軍

―玉東町官軍本営出張所

田原坂が通る豊岡台地とは谷を隔てた西側の二俣台地には、政府軍の砲台や本営出張所が置かれた。現存する後者の石積に弾痕が認められる。

近くの屋敷跡には、多くの銃弾が刺さっていたとのことであり、また、政府軍砲台においても小銃弾や葉莖が検出されている。

薩摩軍が政府軍陣営に迫ったことを示すものである。



政府軍本営出張所の石積



石積の弾痕

土にめり込んだ砲弾片

―熊本市田原坂公園

田原坂を登りきった高所に位置する田原坂公園の北側。発掘調査では多くの小銃弾や砲弾片が出土、塹壕も検出されおり、薩摩軍の主要陣地であったと考えられる。

注目されるのは、炸裂した四斤砲弾片

が土にめり込んだ状態で検出されたことである。土に刻まれた弾痕ともいえる。

二俣台地の政府軍砲台から放たれたものであろう。



砲弾片出土状況



田原坂公園の大楠、数箇所
で金属反応が認められる



公園脇にあった弾痕が多く残る
松本家土蔵、古写真（絵葉書）

激戦を証す濃密な弾痕

―熊本市田原熊野座神社

熊野座神社は、田原坂の戦いの激戦のひとつ、三月七・八・十五日の「宮ノ前の戦い」の舞台である。

鳥居・灯籠・祠（以上石造物）や社殿など様々なものに弾痕が認められ、また、境内の樹木の中からは小銃弾・砲弾片が検出されている。

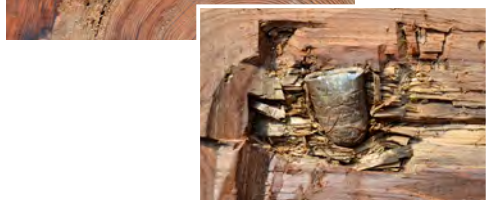
この戦いで社殿は焼失しており、極多数見られる弾痕（突き刺さった小銃弾そのものは、戦後、再建した際に使用した周辺の樹木に打ち込まれていたものである。現在の再建社殿は、戦争があった明治十年のうちに竣工している（棟札銘）。地元住民の鎮守社への厚い信仰がうかがわれる。



社殿の弾痕（右は欄干に小銃弾残る）



石祠の弾痕



石鳥居の弾痕

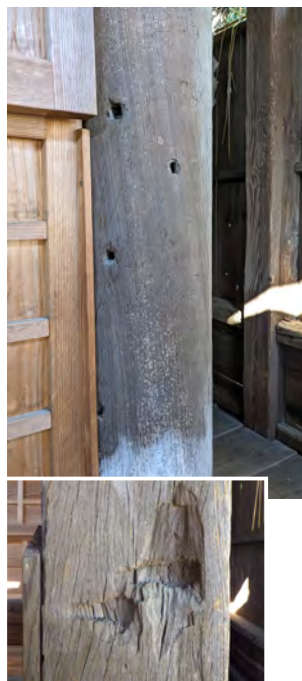
境内樹木（左・中は小銃弾、右は砲弾片）



石灯籠の弾痕

薩摩軍の弾痕？・政府軍の薬莢？―熊本市仁連塔神社

三月二十日、田原坂陥落。同日、薩摩軍は前線を後退させ、木留・植木において東西に長く布陣し、南下する政府軍との間で膠着した戦いが続く。
三池往還の起点となる植木口では、三月二十二～二十八日に仁連塔神社がある広住で激しい戦いがあった。二十三日には神社付近に拠った政府軍を薩摩軍が攻撃。境内からはスナイデル銃薬莢も見つかっている。



社殿の弾痕

薬莢



楯になった？五輪塔―熊本市田原五輪塔

豊岡台地。薩摩軍が盤踞し、田原坂の戦いの主要舞台となった。この台地には中世城があったと伝わり、当時の土器・陶磁器も出土する。中世人が選んだ要害の地を、薩摩軍もまた選んだといえる。
石造物も多く、その一つ、田原五輪塔（十三世紀後半）は高さ約一七メートルの大形五輪塔で、不自然なほどに多くの弾痕が認められる。あるいは狙撃兵がこれを楯にしたため狙い撃ちされたとも考えられる。



コラム 墓石の弾痕が語るもの

墓石の弾痕には、何故こんな所に？と思われる位置に認められるものがある。墓石の底面や上面に、その正面から当たったような弾痕がそれである。

これらは、近くの墓石を積んで堡壘を構築し、その際に前面を向いていたものと考えられる。「石塔台場」と通称される地もあり、政薩両軍とも戦いのためならば何でも利用するという切迫した状況であったことがうかがえる。



玉名市繫根木の墓地、
ともに上面に弾痕あり



植木町豊岡の墓地、下面
に弾痕あり（管理者の許可をいただき調査した）



古写真、墓石を積んだ堡壘（熊本市植木町）

木留・植木方面の戦い(つぎ)

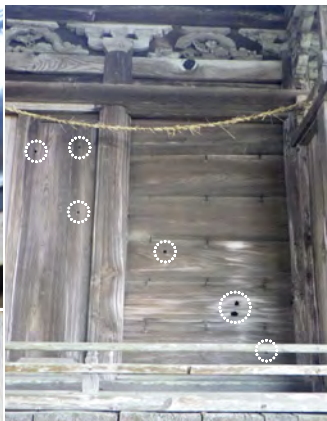
本営に迫った政府軍・迎え撃った薩摩軍 ―熊本市笹尾の石祠・辺田野熊野座神社

薩摩軍本営・薩摩軍病院が置かれた植木町笹尾は、薩摩軍の本拠地であった。四月一日、政府軍はここを衝き戦闘が繰広げられた。

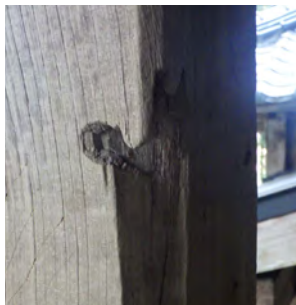
その時のものであるうか、本営跡脇にある石祠や後方の辺田野熊野座神社には弾痕が認められる。後者は、吉次峠方面(西側)から侵攻した政府軍と本営を死守せんとする薩摩軍との戦いを示すと考えられる。



笹尾の石祠の弾痕



辺田野熊野座神社の弾痕(○印)



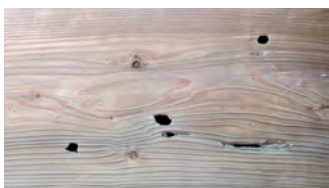
4月1日の戦闘

※ 陸上自衛隊北熊本修親会

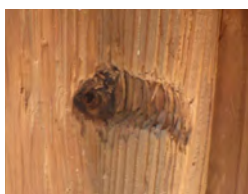
『新編西南戦史付図集』1979に加筆



矢印は狙撃方向(向って右から)



壁板の弾痕、上は右壁・下は左壁



柱の弾痕、右上は小銃弾が残る



社殿に籠る？薩摩兵を狙撃 ―熊本市荻迫神社

荻迫神社の社殿の弾痕。向かって右側(西側)から撃たれたものとみられ、柱の弾痕は右面に撃ち込まれており、壁板の弾痕は、左外側のもに弾が通過した際のささくれが認められる。

薩摩軍は戦地の寺社・民家を占拠し、拠点としていた。本社の弾痕も、あるいは薩摩兵が潜んでいるかもしれないと、政府軍が狙撃したものと考えられる。



社殿右側の弾痕の穴から内部を覗く、左壁に貫通した弾痕が認められる

木留・植木方面の戦い(つぎ)

天井板に乱射―熊本市そめや旅館跡

植木の町は豊前街道が通り三池往還の起点でもあることから、江戸時代以来、在町として栄えた。街道沿いには町屋が形成されていたが、兵火により多くが焼失している。

そのなかで焼け残ったそめや旅館には、天井板に弾痕が残っていた。旅館に伝わる話では、薩摩兵が屋根裏に潜んでいるかもしれないとして、政府軍が天井に向け乱射したのだという。



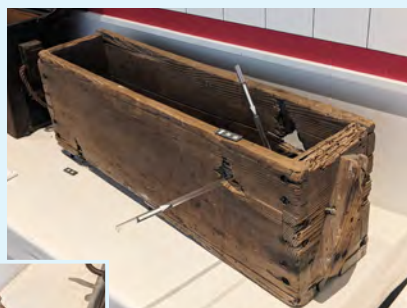
多くの弾痕が見られる天井板、左はアップ



植木町（豊前街道沿い）の古写真、町屋が焼け野原となっている

コラム 弾痕アラカルト

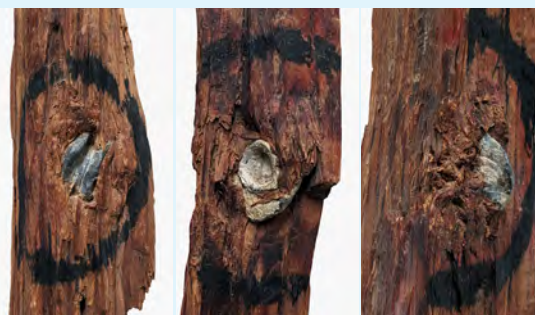
熊本市所蔵の弾痕資料を紹介する。弾薬箱の弾痕は、最前線における激しい戦闘を如実に示すものといえる。他、銃砲弾そのものが残る樹木片も多くある。これらは、主に植木町内から収集し、田原坂西南戦争資料館に保管される資料であるが、古い時期の収集品のため、残念ながら殆どについて詳細な位置は不明である。それでも、主戦場となった植木町内における戦闘の激しさを示すのに十分な資料といえる。



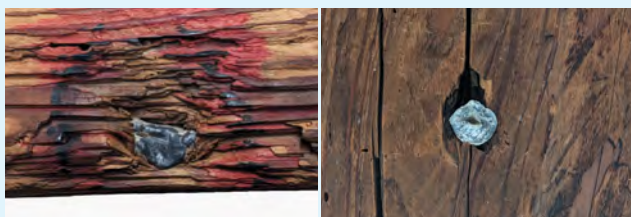
弾薬箱、本資料館にて展示中（令和6年現在）



弾薬箱の弾痕（○印、左はアップ）



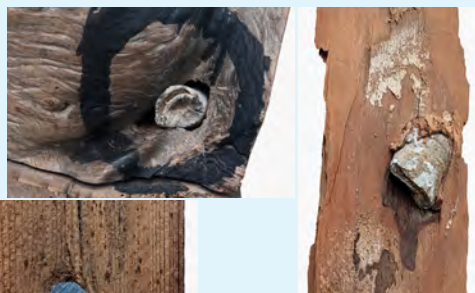
激しく変形した小銃弾、右写真は小銃弾が通過した箇所の木目が乱れている



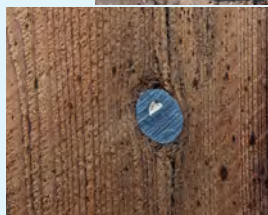
小銃弾、左写真は木目が潰れる



砲弾片



小銃弾、左下写真は加工した板材から検出



古墳に刻まれた弾痕―山鹿市オブサン古墳(国史跡)

田原坂の戦いと並ぶ激戦と称される山鹿口の戦い。豊前街道の宿場町で兼松往還・菊池往還の起点でもあった山鹿町を押えて南関の政府軍大本営を目指す薩摩軍と、熊本城救援を目指す政府軍との間で、主に豊前街道沿いの各所で戦いが繰り広げられた。

オブサン古墳は六世紀築造の装飾古墳で、横穴式石室の閉塞石と羨門袖石(石室入口の仕切り石)に弾痕が認められる。この付近の戦闘では、向坂の戦いで軍旗を奪った薩摩軍のつわ者、村田三介が戦死している。



横穴式石室の開口部(南向き)



羨門袖石左の弾痕
(砲弾痕か)



羨門袖石右の弾痕
(○印、下はアップ)



閉塞石(移設展示)の弾痕

飢肥隊奮戦の地―山鹿市鍋田の墓地

山鹿口の戦いでは、特に三月十二日・十五日の戦闘(第三次・第四次の戦い)が激しかった。この時、党薩諸隊の一つである飢肥隊が布陣した台地南端に位置する年の神は、彼らの奮戦の舞台となった。

この地にある墓地には多くの墓石に弾痕が認められ、なかには大きく割れ、砲弾片が当たたとみられるものもある。西側対岸の台地に政府軍が設けた砲台(車坂・八幡林)からの砲撃によるものであろうか。



小銃弾の弾痕、深く大きく爆ぜたものが多い、至近距離から撃たれたものか



砲弾片による弾痕か



中世板碑にも弾痕



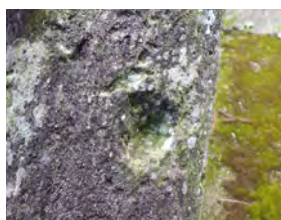
山鹿口の戦い(ごみき)

山鹿口の戦い緒戦の弾痕?—山鹿市石藤崎八幡宮

三月二十六日、山鹿口の戦いの緒戦。山鹿町に向け東進する政府軍とこれ押し戻そうする薩摩軍との攻防は岩野川沿いで展開され、薩摩軍優勢のうちに終わる。豊前街道から派生する平山道沿いにある、岩野川の渡河点にも近い石藤崎八幡宮の弾痕は、この日に刻まれた可能性が高い。



楼門の弾痕 (○印)
中は外面・下は内面アップ



参道石橋の弾痕

野々島・南田島方面の戦い

三月二十一日～四月十五日

大津街道の辻での衝突—合志市野々島矢具神社

三月二十日の田原坂陥落を受け、山鹿口の薩摩軍も撤退。南下して野々島を本拠地とし、北方約二五〇㍎の南田島を前線基地とする。

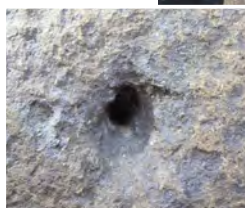
戦闘は度々繰り返され、大津街道と南田島へ延びる南北路とが交差し、要地に当たる矢具神社付近では、特に四月五日の戦闘が激しかった。



社殿の弾痕 (○印)



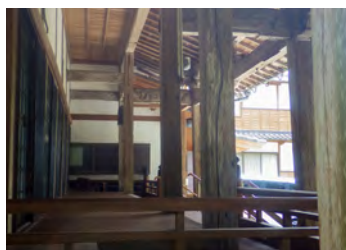
石灯笼の弾痕



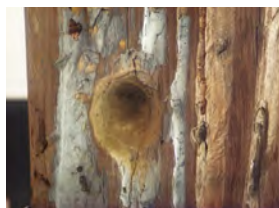
側面攻撃の要地—山鹿市正泉寺

激戦地となった車坂・永野原(豊前街道沿い)の南西に位置する椿井は、これらを側面から衝くうえでの要地であった。政府軍は一帯に堡壘を構え、これを攻める薩摩軍との間で戦闘が展開された。

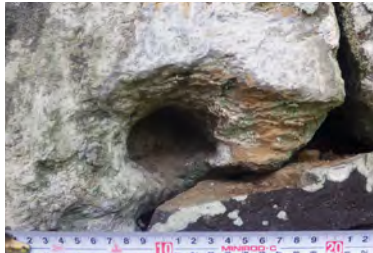
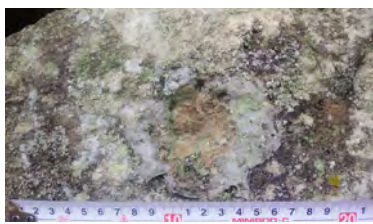
椿井の正泉寺には、この戦いによる弾痕が石積や本堂の柱に見られる。



本堂庇柱に弾痕、西側(菰田方面)から撃ち込まれている



本堂庇柱の弾痕アップ

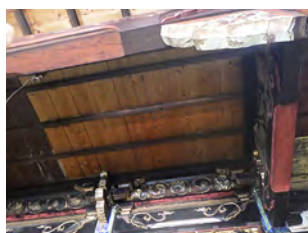


石積の弾痕

天井を突き破った砲弾—菊池市光徳寺

四月四日以降、本格的な戦闘が繰り広げられた南田島。四月七日には政府軍本営が置かれ、近くの光徳寺が会計官宿舎となる。

その本堂に、天井を突き破って砲弾が飛び込んだという。現在、破られた穴は修理されているが、四斤砲弾(不発弾)が残されている。



突き破られた天井(修理済)



本堂柱の弾痕(修理済)



四斤砲弾

八代方面の戦い 四月六〜十七日

砲台をめぐる攻防戦―八代市春光寺

政府軍の衝背軍主力が熊本城救援へ向け北上するなか、薩摩軍は後方の八代方面を襲い、戦闘が繰り広げられた。

春光寺がある古麓一帯の戦闘は特に十三日が激しく、薩摩軍は近くの妙見宮に布陣し、春光寺には砲台を置いた。

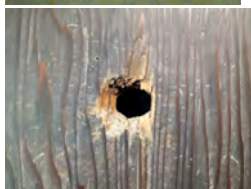
高い戦力を有する砲台は敵の攻撃目標ともなる。春光寺の弾痕は、この砲台をめぐる攻防戦によるものの可能性が高い。



妙見宮の大楠、中から銃弾が検出されたと伝わる



板戸の弾痕(棧は後補)



板戸の弾痕(○印)



顕彰碑(18世紀後半)



顕彰碑にめり込んだ小銃弾

※春光寺は熊本藩家老松井家の菩提寺で、顕彰碑はその墓所内にある。基質は緻密ながら軟質の砂岩製であることから、めり込んで貼り付いたと考えられる。



位牌にも弾痕

突田隊の戦い 四月八日

民家の薩摩軍を襲撃?―熊本市新屋敷の民家跡

長期の籠城で食糧不足が深刻となった熊本鎮台は、決死隊(突田隊・侵襲隊)を組織。薩摩軍の囲みを突破し、食糧の調達ほか武器の確保に成功する。

この戦いでは侵襲隊が新屋敷の東部で薩摩軍と交戦しており、この地にあった民家には、床の間の柱にスナイドル銃弾が刺さったものがある。民家を占拠した薩摩兵を政府軍が襲ったのであろうか。

※本資料は城東会戦の際のもの可能性もある。

城東会戦 四月十七〜二十一日

清正の杉並木に銃弾―熊本市健軍杉馬場

熊本城開放後の市街戦。加藤清正が整備したと伝わる健軍神社参道の杉並木のうち数本を伐採し、さらにこれを輪切りにしたところ、スナイドル銃弾が見つかった。

健軍・保田窪の戦いといわれるこの付近の戦闘は、特に二十日が激しかった。



両側から撃ち込まれた政薩両軍?の小銃弾(○印)



約12cm入り込んでいる



取出された小銃弾



小銃弾痕(貫通)



砲弾痕か



柱に刺さった小銃弾

薩摩軍司令部を攻撃 ―大津町大願寺

城東会戦の戦域は広い。豊後街道の要衝、大津方面では二十日に激しい戦闘があった。薩摩軍が指令部を置いた大願寺山門に残る弾痕は、この時のものと考えられる。

球磨川を挟んだ攻防―人吉城長堀跡

桐野利秋が「この地で二年は持ちこたえる」と豪語したといわれる人吉。戦闘は、主に球磨川を挟んだ南北の攻防であった。

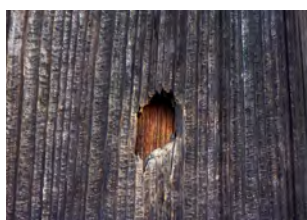
人吉城は薩摩軍が陣し、砲台も設けられたことから、政府軍の攻撃目標となった。球磨川に面する長堀跡からは小銃弾が出土したという。堀跡の樹木について金属探知機調査を行なったところ、数本について、北側の面に反応があった。政府軍の銃砲弾が刺さっている可能性が高い。



長堀跡の樹木と金属探知機調査風景（○印箇所で反応あり）



長堀跡から政府軍砲台が置かれた北側対岸の村山丘陵を望む（矢印）



社殿背面の弾痕



背面には小銃弾も残る（内壁の梁が見える箇所）



社殿右側面の弾痕



石灯籠の弾痕？



拝殿礎石の弾痕



※本神社の灯籠の石材は斑晶（石の中の粒）が大きく、これが剥脱した穴と弾痕との区別がつきづらい。



拝殿前石灯籠の弾痕



拝殿前の石灯籠



楼門前石灯籠の弾痕

人吉隊奮戦の地―人吉市青井阿蘇神社
そもそも薩摩軍の人吉布陣は、党薩諸隊の一つ、人吉隊の進言によるものであった。その人吉隊は、政府軍を側面から衝く位置にあたる青井阿蘇神社に陣した。境内の灯籠や拝殿礎石には弾痕が認められる。

竹田の戦い 五月二十〜二十九日

政府軍が駆け上がった切通し―大分県竹田市茶屋の辻一带

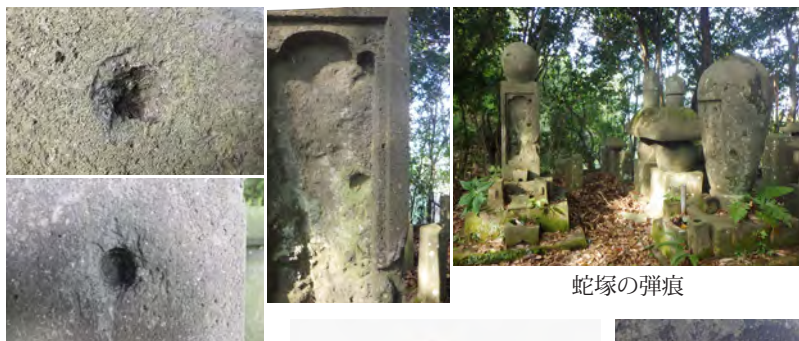
人吉の戦いに敗れた薩摩軍は、体勢を立て直すべく、竹田土族からなる報国隊に先導され、豊後街道の宿場町で日田へ延びる往還の起点でもあった竹田の町に移って本拠を置く。凝灰岩の崖が切り立つ茶屋の辻の台地は、その主要陣地であり、主戦場ともなった。

台地西側の切通しの露頭には弾痕が多く見られる。政府軍が玉来方面から駆け上がった際に激しい銃撃戦があったとみられる。

一方、台地高所の蛇塚と称する墓地の墓石の多くに認められる弾痕は、至近距離から銃撃されたためであろう、深く刻まれたものが目立ち、なかには貫通するものもある。墓石を積んで堡塁としたといわれている。



切通しの弾痕、右は南壁・左は北壁・下3点はアップ



蛇塚の弾痕



蛇塚採集のスナイドル銃弾・葉莢



蛇塚の弾痕(貫通)



蛇塚の弾痕、政府軍砲台(拝田原)からの砲撃によるものか



政府軍が布陣した中川神社、弾痕が多く認められるという



切通しを登りきった場所に立つ山桜、窪みに金属反応がみられる



弾痕がある自然石(頁岩)

大楠方面の戦い 六月二十五日〜七月二日

石を楯に戦った政府軍

―宮崎県日之影町大楠台場近く

高千穂小坂峠での戦いに敗れた薩摩軍は南下し、現日之影町の諸集落に堡塁を築き分屯する。政府軍はこれを急襲、日之影川一帯で戦いが繰り広げられた。

主戦場となった薩摩軍の大楠台場近くには、弾痕が残る自然石が切り取って置かれている。堡塁からの攻撃に対し、政府軍は「樹木岩石に障礙して戦闘」したとあり(黒龍會本部『西南記傳 上巻二』一九〇八)、弾痕はこのことを示すものといえる。

コラム 「高熊山の弾痕」は弾痕か？

六月十八〜二十日の高熊山の戦い（鹿児島県伊佐市）。薩摩軍が構築した堡塁周辺の大きな自然礫群には小さな窪みが多数認められ、弾痕と言われている。

しかし、これらには小銃弾が当たった際に生じる「爆ぜ」は認められない。上面に多いことも不自然である。恐らくは、熔結時にガスが抜けた穴、あるいは斑晶（石の中の粒）が剥脱した穴と考えられる。自然礫群の石材は輝石安山岩で、硬質の石材には鉛製の小銃弾は刺さりづらかった（弾痕が着きづらかった）のであろう。



高熊山の弾痕？



安山岩製水盤（19世紀初頭）



安山岩製灯籠（17世紀）、奥側の凝灰岩製灯籠には弾痕がある

前述した田原熊野座神社。弾痕が認められる石造物（鳥居・石灯籠など）は、比較的軟質の凝灰岩製である。多くの箇所に弾痕が見られるにも関わらず、同境内にある安山岩製の灯籠や水盤には明確な弾痕は認められない。硬質石材には小銃弾が刺さりづらかったことを示すものといえる。

天包山の戦い 七月二十二・二十三日 姿無き銃撃戦―宮崎県西米良村坊主岩

西米良方面の戦い。政府軍は天陰の天包山に拠る。東方の小川に陣した薩摩軍は約七百人を登ってこれを襲った。

山中の樹木や岩に隠れながらの戦闘は、銃声のみで兵の姿は見えなかったという。山頂近くの坊主岩と称される巨岩に弾痕が認められ、薩摩軍が登った南西方向から撃ち込まれている。



山頂近くの巨礫（花崗斑岩）、下は弾痕のアップ



花岡山（薩摩軍砲台）から熊本城を望む

ひるがえって、長期の籠城戦があった熊本城跡（熊本鎮台）。薩摩軍の銃砲弾が多数撃ち込まれた。石垣は硬質石材（輝石安山岩）。石垣面が凸凹しており認識しづらいこともあるが、やはり弾痕は認められない。

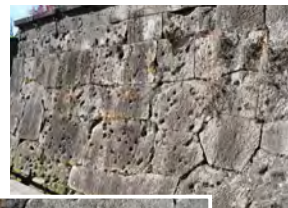
城山の戦い 九月一〜二十四日

最後の弾痕―鹿児島市私学校跡・鹿児島城跡

西南戦争の最終決戦。薩摩軍は城山に籠もり、あるいは出撃して最後の抵抗を試みる。政府軍は大軍をもってこれを攻略、二十四日、西郷の自決をもって七ヶ月に及んだ戦いは終結する。

私学校跡の石塀や鹿児島城跡大手虎口（御楼門部）の石垣に残る弾痕（小銃弾・砲弾片が刺さったもの）の多くはこの戦いによるのと考えられ、石垣の発掘調査では、排水溝から砲弾片や石垣（凝灰岩）碎片も出土している。なお、弾痕は正面の石垣だけでなく左右・内側の面にも見られ、これらは北東の浄光明寺、南西の柿本寺町からの砲撃によるものの可能性がある。

※鹿児島城跡は太平洋戦争時に機銃掃射を受けており、弾痕にはこの時のものもあると考えられる。



私学校跡石塀の弾痕

鹿児島城跡石垣の弾痕、上は正面・下は向って左面



連携事業のご紹介



未来に誇る、熊本の軌跡。

熊本遺産
KUMAMOTO HERITAGE

「田原坂の戦い」の戦場となった熊本市と玉名郡玉東町は、ともに西南戦争遺跡の保護と活用に取り組んでいます。

一熊本市田原坂西南戦争資料館における玉東町資料の展示一



田原坂の戦い 三月四～二十日

座敷に飛び込んだ砲弾―玉東町上白木弾痕の柱

西南戦争最大の激戦、田原坂の戦い。田原坂が通る豊岡台地（熊本市）だけでなく、西側対岸の二俣台地（玉東町）など、田原坂をめぐる周辺一帯が戦場となった。

三月十二日、吉次峠を占拠する薩摩軍は、北方の政府軍本営を襲うべく、間道を潜行して原倉から白木へと進出するが、政府軍は応戦してこれを押し戻す。

その経路上の上白木に建っていた民家の弾痕は、この戦いによるものの可能性がある。砲弾が飛び込み、座敷の柱をかすたとみられる太い傷である。なお、この砲弾は着弾したものの不発であったと考えられる。

展示風景

※平成28年（2016）の熊本地震で被災し、やむなく解体された際、玉東町教育委員会がこれに立会って回収し保管していた建物の一部を、熊本市田原坂西南戦争資料館に移設、展示している（令和6年現在）。

【編集後記】

日本の近代化において大きな画期となった西南戦争。ただし、「生みの苦しみ」ともいえる戦いは激しく、また悲惨であり、各地の戦跡に残る弾痕は「実物」をもってこのことを示している・・・読者の皆様はそのように実感していただければと願いながら本冊子を作成しました。限られた調査期間で実見した資料のみを扱っているため、遺漏も多いかと思えます。お断りしておきます。

最後になりますが、現地調査においてご協力いただき、掲載をご許可いただいた方々に深甚の謝意を申し上げます。

熊本市田原坂西南戦争資料館

利用案内

- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料
一般（高校生以上） 個人 300円 団体（20名以上） 240円
小・中学生 個人 100円 団体（20名以上） 80円
- 休館日 12月29日から翌年1月3日まで

ただし乳幼児、障害者手帳をお持ちの方、熊本市・鹿児島市・福岡市・北九州市に居住する65歳以上の方（証明できるものを提示）と同市内の小・中学生（名札か生徒手帳提示）等の入場は無料です。



お問い合わせ

熊本市文化財課植木分室

〒861-0195 熊本市北区植木町岩野238番地1

☎ 096-272-0551

熊本市田原坂西南戦争資料館

〒861-0163 熊本市北区植木町豊岡858番地1

☎ 096-272-4982

